

## ご意見の内容及びご意見に対するご回答

意見提出元：株式会社日立製作所

No	該当箇所	ご意見の内容	ご回答
1	Ⅲ－1. システム構成(20ページ)	<p>&lt;意見内容&gt;</p> <p>メータリングシステム全体を見据えた通信要件の抽出が必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務や将来の新サービスまでを考慮したメータリングシステム全体としての構成を検討すべきです。</li> <li>・共通基盤(ICTプラットフォーム)を適用して、拡張性・柔軟性の高いシステムを志向すべきです。</li> </ul> <p>&lt;理由&gt;</p> <p>スマートメーター～MDMSにおけるシステム構成については、従来業務(営業システム、配電システムなど)の高度化・業務効率化、新しいサービス(DR、HEMSなど)を全体システムイメージとして捉えた上での通信要件の抽出が必要です。</p> <p>また、スマートメーターは段階的に導入され、かつ多様な通信方式やデータの処理をサポートする必要があること、既存業務システムとデータ連携するMDMSは、既存システムへの影響を極力抑制することが必要とされます。</p> <p>そこで、システム初期構築時より、「共通基盤(ICTプラットフォーム)」の設計概念を考慮しておく必要があります。</p>	<p>計器、通信ネットワーク及び MDMS を含めたシステム全体に関する要件について、スマートメーターの設置・展開や業務革新に係わる内容(自動検針、停止・停解等)については既に定義済みである一方、デマンドレスポンスや料金精算以外への検針データの活用については、現時点で十分な検討が出来ていません。</p> <p>今後、社外のアドバイザー(コンサルタント)の活用も視野に入れ、システム全体に対する要求条件やスマートメーターのユースケース全般に関する集中的な検討を速やかに実施する予定です。</p>
2	Ⅲ－1. システム構成(20ページ)	<p>&lt;意見内容&gt;</p> <p>MDMSの業務要件を考慮してスマートメーターの通信要件を検討すべきです。</p> <p>&lt;理由&gt;</p> <p>MDMSがメータリングシステムの中核であり、スマートメーター個々を一元管理することから、各機能が問題なく実施できるよう、通信の割り込み処理の検討が必要です。</p>	<p>いただいた通信要件についてのご意見は、システムのトータル設計の観点から、通信方式の選定評価やシステム設計時の参考とさせていただきます。</p>

		<p>・MDMSからの開閉器制御・設定要求に際し、定期的に通信を行っている30分検針値収集の際にも、MDMSからのスマートメーターへの個別要求・応答(状態問い合わせなどを含む)を随時・制限なく受けられるべきです。</p> <p>(運用者が30分値収集など他の機能処理を意識することなく、操作ができるよう通信の処理を考慮する)</p> <p>・MDMSからスマートメーターへの個別要求・応答時間が長時間(概ね人間が不具合を疑う時間)におよぶ場合には、予測応答時間を表示するなど、オペレーターへの表示内容を考慮すべきです。(運用者への負荷軽減)</p>	
3	Ⅲ-1. システム構成(20ページ)	<p>&lt;意見内容&gt;</p> <p>デマンドレスポンス(DR)の実現を考慮したスマートメーターへの通信要件を検討すべきです。</p> <p>&lt;理由&gt;</p> <p>スマートメーターの導入目的の1つである需給対策を実現するためです。</p> <p>低圧需要家向けへのDR適用に伴う導入効果については現在も実証中ですが、料金設定の需要誘導を考慮するとスマートメーターの通信要件は以下となります。</p> <p>例:CPP(Critical Peak Pricing)のケース:厳しい需給条件下において、予め設定したピーク時間帯の電気料金単価を平常時より高く設定することにより、需要家サイドからの自主的な抑制行動を促します。</p> <p>①CPP発令時間での30分値データ</p> <p>②下り:参加告知、開始/継続時間、価格情報</p> <p>③上り:参加意思 など</p> <p>但し、上記のデータの授受について、スマートメーター経由で実現するかを十分に検討する必要があります。</p>	<p>これまでも料金メニューによるデマンドレスポンスについて検討して参りましたが、今後は、社外のアドバイザの活用も視野に入れ、ユースケースの集中的な検討を実施する予定です。横浜スマートシティプロジェクト(YSCP)実証事業、スマートハウス・ビル標準・事業促進検討会等の国レベルでの検討に積極的に参画し、他社との業務提携などの新たな視点からの検討も加え、最大限ピーク需要を抑制し、供給設備に係る設備投資の削減を追求してまいります。</p>
4	Ⅲ-1. システム構成(20ページ)	<p>&lt;意見内容&gt;</p> <p>メータリングシステムと配電自動化の連携により、配電業務(監視, 制御, 保守, 建設等)の</p>	<p>メータリングシステムと配電系統関連システムとの関係による合理的な設備</p>

	0ページ)	<p>効率化／高度化を図る観点からもスマートメーターの通信要件を考慮することが必要です。</p> <p>&lt;理由&gt;  メータリングシステムとの連携により、配電自動化や各種配電業務システムに、収集した30分検針値を配信・加工・活用し、配電業務への需要状況、PV発電状況の可視化により、効率化・高度化が図れます。</p> <p>6kV配電システムのセンサ開閉器を利用した区間負荷予測をメータリングシステムで計測される負荷実績データを活用し、精度を向上させ、そのデータを用いて負荷予測を行い、適切な設備設計業務や監視業務に役立てられます。</p>	<p>形成や業務効率化を目的とした検討は継続的に実施しておりますので、必要な通信要件について反映していきたいと考えております。</p>
5	I-1. スマートメーター通信ネットワークの特徴 (5ページ)	<p>&lt;意見内容&gt;  スマートメーター通信ネットワークの通信方式の選択には「3種類の評価指標」の策定が必要です。</p> <p>(1) アプリ/サービス(30分検針値収集、DRなど)の要求仕様  (2) 通信方式の性能指標 (通信速度、通信遅延など)  (3) 地域特性に基づく評価指標(世帯密度、外部干渉/ノイズなど)</p> <p>&lt;理由&gt;  複数の評価指標を元に総合的な評価結果を算出し、その結果に基づいて通信方式を定量的に比較することで、アプリ/サービスの要求仕様を満たした上で、最も低コストに実現可能な通信方式を選定することができるためです。</p>	<p>いただいた評価指標についてのご意見は、通信方式の選定評価やシステム設計時の参考とさせていただきます。</p>
6	Ⅲ-1. システム構成 I-3. スマートメーターが実現する	<p>&lt;意見内容&gt;  ハンディターミナル(HT)は業務要件を考慮して通信要件を検討すべきです。</p> <p>&lt;理由&gt;  上位サーバからのデータ収集、遠隔機器設定などが出来ない場合は、ハンディターミナ</p>	<p>いただいたハンディターミナルについてのご意見は、業務要件との整合性の観点から、通信方式の選定評価やシステム設計時の参考とさせていただきます。</p>

	機能(3) ～ハンディ ターミナル 通信～(9ペ ージ)	ルからの通信、各業務機能を確実に実施できるように、通信要件を検討する必要があります。 ・ハンディターミナルでの収集対象データおよび機器情報の管理を行うために、上位サーバでの欠損データ情報をハンディターミナルと連携する必要があります。 ・各戸での検針員の作業となるため長時間を有することは望ましくないため、通信時間、業務機能の優先度、操作性を考慮する必要があると考えます。	
7	Ⅱ．通信方 式選定の考 え方(13～ 18ページ)	<意見内容> WAN側通信方式選定のための性能指標の策定が必要です。  <理由> 通信制御サーバとコンセントレータを結ぶWANにおいても、検針間隔やスマートメータ制御の応答性能等のアプリケーション要求仕様、基幹ネットワーク整備状況等の地域特性を考慮した性能指標を策定することにより、ライフサイクルコスト(＝調達コスト、構築コスト、運用コスト)を抑えた適切な通信方式を選択することができるためです。	いただいた性能指標についてのご意見は、適材適所での通信方式適用の観点から、通信方式の選定評価やシステム設計時の参考とさせていただきます。
8	Ⅱ．通信方 式選定の考 え方(13～ 18ページ)	<意見内容> FAN通信方式選定のための性能指標の策定が必要です。  <理由> 検針間隔やメータ制御の応答性能等のアプリケーション要求仕様、スマートメータ密集度、設置個所、環境等、スマートメータが設置される地域特性を考慮した性能指標を策定することにより、ライフサイクルコスト(＝調達コスト、構築コスト、運用コスト)を抑えた適切な通信方式を選択することができるためです。	いただいた性能指標についてのご意見は、適材適所での通信方式適用の観点から、通信方式の選定評価やシステム設計時の参考とさせていただきます。
9	Ⅱ．通信方 式選定の考	<意見内容> 地域特性に適した通信方式を選択する評価指標を策定が必要です。	いただいた評価指標についてのご意見は、適材適所での通信方式適用の

	え方(13～18ページ)	<p>&lt;理由&gt;</p> <p>メーター密度、設置箇所、障害物、スマートメーターが設置される地域特性を考慮した評価指標を策定することにより、全エリアへライフサイクルコスト(=調達コスト、構築コスト、運用コスト)を抑えた適切な通信方式を選択することができるためです。</p>	観点から、通信方式の選定評価やシステム設計時の参考とさせていただきます。
10	I-1. スマートメーター通信ネットワークの特徴(5ページ)	<p>&lt;意見内容&gt;</p> <p>地域的特性に加え、スマートメーター導入の目的/期待効果/導入制約などの諸条件を整理し、どの地域にどの順序でスマートメーターを設置するかを考慮すべきです。</p> <p>&lt;理由&gt;</p> <p>スマートメーター導入の費用対効果を向上させることができるためです。</p> <p>例えば無線マルチホップで導入の場合、「選定地域単位でスマートメーターへ取替」により投資を抑え早期に検針サービス導入の効果が期待できます。投資抑制方法を検討し実現させていきたい。</p>	<p>計器、通信ネットワーク及び MDMS を含めたシステム全体に関する要件について、スマートメーターの設置・展開や業務革新に係わる内容(自動検針、停止・停解等)については既に定義済みである一方、デマンドレスポンスや料金精算以外への検針データの活用については、現時点で十分な検討が出来ていません。</p> <p>今後、社外のアドバイザー(コンサルタント)の活用も視野に入れ、システム全体に対する要求条件やスマートメーターのユースケース全般に関する集中的な検討を速やかに実施する予定です。</p>
11	I-2. スマートメーター通信ネットワークに求める機能(6ページ)	<p>&lt;意見内容&gt;</p> <p>長期運用中に变化する通信仕様や業務システム追加の要求に対して柔軟に対応するために、業務とメータリングシステムとの接続を共通化するICTプラットフォームが必要です。</p> <p>①通信仕様の追加/変更をplug-in形式で行います。</p> <p>②業務システム向けI/Fの標準化とスマートメーター向け通信の標準仕様(例:IPv6)の適用を推進します。</p>	いただいたご意見は、通信方式の選定評価時の参考とさせていただきます。なお、MDMS と外部システムとの連携部分はオープンで標準化されたインターフェース規格に準拠することを基本とします。また、通信方式に依らず、IP を実装する方針に変更すること

		<p>&lt;理由&gt;</p> <p>①通信仕様や電波法の改正に対して、低コストでかつ早期に対応するためです。</p> <p>②システム間の接続を共通化することで、ICTプラットフォームのPlug-in開発・運用コスト削減をするためです。</p>	<p>といたします。</p>
12	<p>I-2. スマートメーター通信ネットワークに求める機能(6ページ)</p> <p>④長期にわたって運用できること</p> <p>⑤低コストで構築・維持できること</p>	<p>&lt;意見内容&gt;</p> <p>① スマートメーター間での通信の相互接続性を確保し、マルチベンダでのスマートメーター調達方法を推奨します。</p> <p>② 供給ベンダが相互接続を確認するための手段(例:試験手順)を用意すべきです。</p> <p>③ 相互接続性のみならず性能面での基準を設け、基準をクリアすることを確認する手段が必要です。</p> <p>&lt;理由&gt;</p> <p>①複数のベンダからの供給体制を整えることにより、</p> <p>(1)適切な競争による価格の適正化</p> <p>(2)大量のスマートメーターの調達を1社に依存した場合の将来の調達リスク低減が期待されるためです。</p> <p>②仕様を公開するだけでは相性による不具合が発生します。相互接続試験により未然に防ぐことが重要です。</p> <p>③相互接続だけでは性能差が発生し、システムとして動作しない場合があります。システムの信頼性を保障するために、性能面の基準の設定して、基準をクリアしていることを確認することが重要です。</p> <p>弊社はこれまでの実績より、以上のことを確認するための試験仕様書を作成することができます。</p>	<p>ご意見の通り、相互接続性を確保するための仕組み作りは重要と考えておりますので、通信方式の選定と合わせて検討して参ります。</p>
13	<p>Ⅲ-3. 通信ユニット概</p>	<p>&lt;意見内容&gt;</p> <p>通信性能を向上させ信頼性を確保するために以下について検討すべきです。</p>	<p>いただいた送信電力についてのご意見は、ネットワーク構築コストの観点か</p>

	要(29ページ)	<p>・最大送信電力の増加 920MHz帯において電波出力を250mWまで上げる。</p> <p>&lt;理由&gt; 通信距離を確保することはネットワーク構築コストにとって重要です。条件によりますが20mWと250mWを比較した場合、250mWの方が2～4倍の通信距離を確保することができます。通信距離を伸ばすことができるとリピーターの設置が不要となり、構築コストが低減できるためです。</p>	ら、通信方式の選定評価やシステム設計時の参考とさせていただきます。
14	I-3. スマートメーターが実現する機能(4)～宅内通信機能～(10ページ)	<p>&lt;意見内容&gt; 基本仕様ではHEMSとの情報連携に必要なインターフェース仕様のみが記載されていますが、機能要件についても明確にすべきです。</p> <p>&lt;理由&gt; 機能要件が明確になっていなければ、宅内通信に必要な機能・性能を明確にすることが難しく、宅内通信の提案技術・製品の評価が困難になるためです。 例えば以下に挙げるような機能要件が必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 電力使用量の見える化、売電量の見える化に必要な、「電力使用量(30分積算値)」、「逆潮流値(30分積算値)」、「時刻情報」の提供。</li> <li>・ デマンド制御(需要家での需要電力が予め設定された最大需要電力内に収まるように、HEMSが需要電力をリアルタイムに監視し必要に応じて家電等の負荷の電力需要を抑制制御する)の実行に必要な「リアルタイム 需要電力」の提供。</li> <li>・ デマンドレスポンス(需要抑制制御センタからの要請に基づきHEMSのデマンド制御機能等を活用し宅内の需要を抑制)を実行したことの挙証に必要な、例えば「30分最大需要電力」の提供。</li> <li>・ スマートメーターから宅内への通信到達範囲や性能。</li> </ul>	スマートメーターと HEMS との情報連携(B ルート)については、「スマートハウス標準化検討会中間取りまとめ」(平成24年2月24日)の結果にしたがって、IP および ECHONET-Lite を実装することとし、現時点で提供するデータ項目は、「電力量(30分積算値)」「逆潮流値(30分積算値)」「時刻情報」を適用します。また、将来的に提供するデータ項目については、いただいたご意見も参考にしながら、当社も参画する「スマートハウス・ビル標準・事業促進検討会(事務局:経済産業省)」等において提言を行うとともに、当該検討会等での議論を踏まえて仕様を策定し、実装することとします。
15	I-3. スマ	<意見内容>	スマートメーターと HEMS との情報連

	<p>ートメーター が実現する 機能(4) ～宅内通信 機能～(10 ページ)</p>	<p>スマートメーター通信方式(Aルート通信方式)と宅内通信方式(Bルート通信方式)は、通信部のコスト低減のために同一メディアとするのではなく、異なるメディアの採用も並行検討すべきです。</p> <p>&lt;理由&gt; 異なるメディアの採用により、各ルートのセキュリティおよび通信信頼性の確保が容易となるためです。Aルート通信用の通信チップとBルート通信用の通信チップの2チップ構成にすると、通信部のコストアップになるため、両通信が可能なハイブリッド型通信チップを用いてコストダウンを図ることができます。</p>	<p>携(B ルート)については、「スマートハウス標準化検討会中間取りまとめ」(平成 24 年 2 月 24 日)の結果にしたがって、IP および ECHONET-Lite を実装することとします。A ルート、B ルートとも複数の通信方式から選択することから、2 チップで対応することとしており、モジュールの共用/分離については、機能実装上の得失、コスト面等を勘案の上、最適な方法を判断してまいりたいと考えております。</p>
16	<p>I-3. スマ ートメーター が実現する 機能(4) ～宅内通信 機能～(10 ページ)</p>	<p>&lt;意見内容&gt; ECHONET Liteでは、スマートメーターから提供されるデータ「電力使用量」の粒度は現在30分と規定されていますが、この粒度を数分まで細分化すべきです。(Aルート、Bルートが異なるメディアの場合)</p> <p>&lt;理由&gt; ・理由(可能であれば、根拠となる出典等を添付又は併記して下さい。) デマンドレスポンス(センタからの要請に基づきHEMSのデマンド制御機能等を活用し宅内の需要を抑制)を行なうには、HEMSにデマンド制御機能(スマートメーターからリアルタイム需要電力を取得し、予め決められた上限値を越えないように家電等の負荷の電力需要を抑制制御し、最大需要電力の抑制)が必要となります。このためHEMSは数分程度の短い粒度の「電力使用量」をリアルタイムに取得する必要があります。 このデータは、需要家の節電行動に対するインセンティブ計算に使用されるため、インセンティブ付与ルール設計と併せて決定されるべきものと考えます。 スマートメーター制度検討会報告書の内容に基づきECHONET Lite仕様が規定されていますが、スマートメーター制度検討会報告書では「情報や粒度の拡張性については、HEMSの普及状況、今後の各種実証実験の成果や他の機器による対応を含めた多様なユース</p>	<p>スマートメーターと HEMS との情報連携(B ルート)については、「スマートハウス標準化検討会中間取りまとめ」(平成 24 年 2 月 24 日)の結果にしたがって、IP および ECHONET-Lite を実装することとし、提供する電力量は 30 分毎の積算値を適用します。また、将来的な検針積算値の粒度や頻度については、いただいたご意見も参考にしながら、当社も参画する「スマートハウス・ビル標準・事業促進検討会(事務局:経済産業省)」等において提言を行うとともに、当該検討会等での議論を踏まえて仕様を策定し、実装することとします。</p>

		<p>ケースの実現可能性を踏まえて適宜再検討していく必要がある。」と記載されており、本意見はこれに該当すると考えます。</p> <p>BEMS分野においては、高圧メーターのサービスパルス検出やCT(カレントトランス)により「リアルタイム需要電力(W)」を測定し、これを基にデマンド制御を行なう機能が一般的に実現されていますので、低圧メーターにもこれに類するデータ提供が必要と考えます。</p>	
17	I-3. スマートメーターが実現する機能(5) ~ セキュリティ~ (11ページ)	<p>&lt;意見内容&gt; セキュリティに関して脅威および対策の追加が必要です。</p> <p>&lt;理由&gt; 脅威と対策が述べられているが、セキュリティに関する国際標準からの要件抽出、並びにメータリングシステムで求められるセキュリティ要件から、暗号鍵・暗号アルゴリズムの危殆化、証明書失効リストの作成、ハンディターミナルの盗難対策、宅内通信側からのネットワーク侵入対策、等の追加対策が必要と考えられるためです。</p> <p>&lt;危殆化(キタイカ): 暗号アルゴリズムの安全性のレベルが低下した状況(解読技術の向上、計算機処理の向上などによる)&gt; 【補足 御提案書 P35, 36 参照】</p>	<p>いただいたセキュリティについてのご意見は、通信方式の選定評価やシステム設計時の参考とさせていただきます。</p>
18	I-3. スマートメーターが実現する機能(5) ~ セキュリティ~ (11ページ)	<p>&lt;意見内容&gt; 暗号化を実施する際、暗号化アルゴリズムの比較検討が必要です。</p> <p>&lt;理由&gt; 一般的に、暗号処理をすると暗号強度に応じ通信データ量が増えますが、電文フォーマットとの兼ね合いで暗号処理を実装できない場合もあります。また、スマートメーターに保存する鍵情報量、暗号化、復号の処理速度などもコスト面においても重要な項目になると考えます。</p> <p>そのため以下の項目を考慮し暗号化アルゴリズムを選定する必要があります。</p> <p>①強固な安全性 暗号化アルゴリズムを選定する際、安全性は重要な項目と考えます。</p>	<p>いただいたセキュリティについてのご意見は、セキュリティ要件定義において考慮すべき事項であるため、通信方式の選定評価やシステム設計時の参考とさせていただきます。</p>

		<p>②高い処理効率性(軽量性と高速性) 必要メモリが小さく、かつ、高速なアルゴリズムを選定する必要があると考えます。</p> <p>③低いトラフィック負荷 暗号化・改ざん検知機能が付加するデータ量を可能な限りスリム化し、トラフィック量をなるべく増やさない方式を検討する必要があると考えます。</p> <p>④長期運用を見越した設計 10年以上の長期運用に耐えられるように、暗号アルゴリズムを更新できる仕様を検討する必要があると考えます。</p>	
19	I-3. スマートメーターが実現する機能(5)～セキュリティ～(11ページ)	<p>&lt;意見内容&gt; 暗号鍵の危殆化、暗号アルゴリズムの危殆化について考慮すべきです。</p> <p>&lt;理由&gt; ・スマートメーターは長期稼動が前提であり、以下の観点での検討が必要です。</p> <p>暗号鍵更新 - スマートメーターは屋外に設置されるため、部外者からのアクセスが容易であり、暗号鍵の漏えいが想定され、その場合、各機器が暗号鍵の有効性を判断するとともに、必要に応じ更新する必要があるためです。</p> <p>暗号アルゴリズム更新 - セキュリティインシデントへの対応等で、暗号アルゴリズムを更新する必要があるためです。</p>	いただいたセキュリティについてのご意見は、セキュリティ要件定義において考慮すべき事項であるため、通信方式の選定評価やシステム設計時の参考とさせていただきます。
20	I-3. スマートメーターが実現する機能(5)～セキュリティ～(11ページ)	<p>&lt;意見内容&gt; なりすまし対策においては、認証鍵の危殆化についても考慮すべきです。</p> <p>&lt;理由&gt; スマートメーターは屋外設置されることが多く、盗難・分解等によって認証鍵が危殆化し、なりすましが発生する可能性があるためです。【補足 御提案書 P41, 42 参照】</p>	いただいたセキュリティについてのご意見は、セキュリティ要件定義において考慮すべき事項であるため、通信方式の選定評価やシステム設計時の参考とさせていただきます。

21	I-3. スマートメーターが実現する機能(5)～セキュリティ～(11ページ)	<p>&lt;意見内容&gt; ハンディターミナルの盗難、悪用について考慮すべきです。</p> <p>&lt;理由&gt; ハンディターミナルを盗難などにより悪用され、不正な開閉制御等が行われることが想定されるため正しいハンディターミナルであることを認証する仕組みが必要です。</p>	<p>いただいたセキュリティについてのご意見は、セキュリティ要件定義において考慮すべき事項であるため、通信方式の選定評価やシステム設計時の参考とさせていただきます。</p>
22	I-3. スマートメーターが実現する機能(5)～セキュリティ～(11ページ)	<p>&lt;意見内容&gt; ソフトウェア更新についてのセキュリティ対策(正当なソフトウェアであるかを検証する仕組み)を検討すべきです。</p> <p>&lt;理由&gt; 「スマートメーターの通信ソフトウェアの機能改良を効率的に行うため、遠隔から通信ネットワークを利用して通信ソフトウェアを更新する。」という仕様となっていますが、スマートメーターへの不正なソフトウェアの配信、配信されるソフトウェアの改ざんなどの脅威があり、不正なソフトウェア更新が行われるとスマートメーターが悪用される可能性があります。</p> <p>そのため、スマートメーターは受信したソフトウェアを更新する前に、当該ソフトウェアが正当なソフトウェアであるかどうかを検証する仕組みが必要です。</p>	<p>いただいたセキュリティについてのご意見は、セキュリティ要件定義において考慮すべき事項であるため、通信方式の選定評価やシステム設計時の参考とさせていただきます。</p>
23	I-3. スマートメーターが実現する機能(5)～セキュリティ～(11ページ)	<p>&lt;意見内容&gt; 宅内通信についてのセキュリティ仕様を明確化する必要があります。</p> <p>&lt;理由&gt; ・ECHONET Lite自体はセキュリティ機能を持たないため、機器同士のプロトコルが異なると相互接続問題が発生する可能性があるためです。 ・(将来的な利用用途の拡張に伴って)宅内通信側からスマートメーター通信網への侵入、盗聴、改ざんなどの脅威があるためです。</p>	<p>B ルートのセキュリティについては、いただいたご意見も参考にしながら、当社も参画する「スマートハウス・ビル標準・事業促進検討会(事務局:経済産業省)」等において提言を行うとともに、当該検討会等での議論を踏まえて仕様を策定し、実装することとします。</p>